

呉駅周辺地域総合開発を起点としたスマートシティの実現

【背景】

■ 現在、呉市では、次の5つのビジョンを掲げ、次世代型総合交通拠点の整備や、そごう呉店跡地を活用した複合施設の整備などを総合的に進める「呉駅周辺地域総合開発」に取り組んでいる。

(詳細は「呉駅周辺地域総合開発基本計画」等

URL <http://www.city.kure.lg.jp/uploaded/attachment/54070.pdf>)

【呉駅周辺地域総合開発の5つのビジョン】

- ① 交通まちづくりの起点となる“次世代型”総合交通拠点の形成
- ② 市民と来訪者が憩い、賑わい、快適に移動できる駅前空間の創出
- ③ 災害時にも頼りになる防災対応型交通拠点の形成
- ④ 歩きたくなる・住みたくなる「心地よく過ごせるまちなか」の形成
- ⑤ 「公・民・学」一体で課題を解決し続けるまちづくり

■ また、その重要な要素となる呉駅前広場の再整備については、次の5つの整備方針を掲げ、「一般国道31号呉駅交通ターミナル整備事業」として、国直轄による事業化が決定した。

(詳細は「国道31号等呉駅交通ターミナル整備事業計画」等

URL <https://www.cgr.mlit.go.jp/hirokoku/kurebasuta/pdf/jigyoukeikaku.pdf>)

【一般国道31号呉駅交通ターミナル整備事業の5つの整備方針】

- ① モーダルコネクタ機能の強化
- ② 呉駅周辺地域の交通円滑化
- ③ 次世代モビリティ等との連携による移動利便性・回遊性の向上
- ④ 防災機能の強化
- ⑤ 官民連携による計画の具体化

■ 一方で、呉市全体においては、少子化・高齢化への対応、観光消費額の拡大、住民サービスの維持向上等多くの問題を抱えており、組織の枠を超え、課題解決に向け市全体で取り組まなければならない。

■ こうした背景を踏まえ、呉市では、上記の「5つのビジョン」・「5つの整備方針」に適合し、かつ、市全体の課題解決にも資する提案を求める。以下に詳述する。

【課題類型1】

呉駅交通ターミナルの機能拡充に向けた課題

国のバスタプロジェクトの一環として整備を進める呉駅交通ターミナルでは、1階にバス・タクシーの乗降場と一般車乗降場、2階に待合施設やデッキ広場を整備することとしている。

総合交通拠点にふさわしい機能導入に向けて、以下が課題となる。

G-01

呉駅交通ターミナルの機能拡充に向けた次世代モビリティの実装及びそのビジネスモデルの構築

市全体で、公共交通の利用促進、担い手不足、運行の効率化、利便性の維持・向上が課題となっている。

次世代モビリティの実装は、こうした課題を解決する一手法であり、呉市においては、令和元年度に水素バス走行実験、令和2年度に自動運転バス走行実験を実施し、また、令和3年度には自動運転の実装に向けた道路環境の整備を行う予定である。

しかしながら、将来の実装に向けてはハードの整備だけでは不十分であり、持続可能なビジネスモデルの構築が課題となる。

【解決のイメージ・例】

- 決まったルート of 定時データが得られるという自動運転バスの特性を活かし、自動運転車両の走行により得られるデータ(ビデオ画像やセンサーデータ)を、人流分析、警備、インフラ管理など各種ソリューションサービスで活用し、収益化
- 交通関連情報等を活用して購買支援、来客支援等につながるMaaSを導入し、店舗協賛金等により収益化

G

都市基盤(呉駅周辺)分野

G-02 呉駅交通ターミナルの機能拡充に向けた防災機能の強化

平成30年7月豪雨の経験等を活かし、交通ターミナルにおいては、災害時の一時的な避難場所や帰宅困難者の受け入れ空間として活用できる機能、さらには、情報発信機能(次の【課題G-03】で詳述)の導入を目指しており、これらに係る機能強化が課題となる。

【解決のイメージ・例】

先端技術を活用し、災害時における電力確保、通信確保、その他帰宅困難者を支援する機能を実装

G-03 呉駅交通ターミナルの機能拡充に向けた情報発信機能の強化

情報発信機能の強化は市全体の課題であるが、特に呉駅周辺地域においては、市民や来訪者に対する以下の情報を分かりやすく提供することが課題となる。

- 鉄道、バス、航路など複数の交通モードに関する情報
- 災害時には、被災状況、道路交通状況、避難者支援に資する情報等
- 平時においては、イベント情報、駐車場の満空情報、施設や交通機関の混雑度情報

【解決のイメージ・例】

デジタルサイネージやスマートフォンへの表示により情報をジャストインタイムに提供、また、これらの開発、設置、管理等のコストを抑制するソリューションを併せて実装

【課題類型2】

連鎖的開発の誘導に向けた課題(実証フィールドの提供)

呉駅周辺地域総合開発では、交通ターミナルと複合施設の整備を主とする「第1期開発」のみにとどまらず、これを起点として、周辺の低未利用地の有効活用や相乗効果を促進する連鎖的開発を目指している。

また、市全体では、少子・高齢化への対応、観光消費額の拡大、住民サービスの維持向上など多くの課題があり、その解決に向けた新技術の導入を進めるには、一定の検証・実証のフィールドが必要である。

こうしたことを踏まえ、市全体の課題解決に資する新技術の導入に際し、その実証フィールドとして呉駅周辺地域を活用してもらい、これにより呉駅周辺地域のポテンシャルを向上させ、今後の連鎖的開発の誘導を図りたい。

G-04

連鎖的開発の誘導に向けた呉駅周辺地域への居住誘導支援

コンパクト＋ネットワークのまちづくりは市全体の課題であるが、特に呉駅周辺地域においては、第1期開発においてそごう呉店跡地への居住誘導(民間によるマンション開発)を目指しており、地域のポテンシャルを高め、居住誘導に資する新技術の導入が課題となる。

【解決のイメージ・例】

先端技術を活用した、防犯、見守り支援、外出支援、ウォークスルー顔認証、エネルギー管理(HEMS, CEMS)、スマートメーター

連鎖的開発の誘導に向けた呉駅周辺地域における賑わいの創出

地域拠点や商店街における賑わいの創出は市全体の課題であるが、特に呉駅周辺地域においては、呉駅交通ターミナルにおいて2階デッキ広場の整備を目指しており、この2階デッキ広場を起点とする持続的な賑わい創出に資する新技術の導入が課題となる。

【解決のイメージ・例】

先端技術を活用した、エリアへの外出支援、来店支援、購買支援、人流(密)情報表示、スマート屋台出店支援、電子図書閲覧やオンライン学習の場の創出など